



Private Enterprise

Venture Pulse

Q4 2021

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

January 19, 2022

要旨



グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、第4四半期も過去最高に迫る1,714億ドルを記録
- コーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、前年同期の499億ドルから810億ドルに大幅に増加
- ユニコーン企業の資金調達額は4四半期連続で増加
- ベンチャーキャピタルの投資先企業のイグジット活動は、第4四半期に再び3,000億ドルを突破
- 世界の資金調達額は2021年に2,000億ドルに到達



米国

- ベンチャーキャピタルにより、3,536件の取引で882億ドルの投資が行われ、過去最高を更新
- シリーズD以降の年間資金調達額の中央値は、1億500万ドルに到達
- 上位取引10件にフィンテック関連企業4社がランクイン
- コーポレートベンチャーキャピタルにより、第4四半期には歴史的な370億ドルを超える投資が行われた
- 年間資金調達は、過去最高となる1,280億ドルを記録



南北アメリカ

- 3,946件の取引で952億ドルの投資が行われ、過去最高を更新
- シリーズD以降の年間資金調達額の中央値は、1億1,000万ドルに到達
- カナダのスタートアップにとって、歴史的な1年を締めくくる第4四半期を記録
- ブラジルでは22社が1億ドル以上の資金調達を実施し、歴史的な1年を記録
- ブラジルでは25億ドル超の投資、Nubankを含む大型取引が成立



ヨーロッパ

- ヨーロッパでの投資は引き続き好調で、2,041件で280億ドル以上を調達
- コーポレートベンチャーキャピタルは引き続き好調
- 初回のベンチャー資金調達は、前年比で42億ドルから110億ドルに増加
- ロンドンでは、第4四半期にベンチャーキャピタル投資額が記録的に増加
- 上位取引10件に6カ国の企業がランクイン



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は過去最高額に迫る462億ドル、取引総数は2,440件
- 事業会社による投資は、300億ドルに迫る勢いで倍増
- イグジット活動が第4四半期に復活し、好調な1年を記録
- インドでは第4四半期に100億ドル以上の投資が行われ、歴史的な1年を記録
- 上位取引10件に中国企業7社がランクイン

グローバルー2021年 第4四半期

2021年第4四半期（2021年10～12月）も、世界的にベンチャーキャピタル投資は好調に推移し、素晴らしい1年が幕を閉じました。資金の入手が容易であること、年間を通じてイグジット活動で見られた多大な利益、また企業やファミリーオフィスやその他さまざまな非従来型の投資家の参加が増加したことで、市場全体の魅力度が高まりました。オミクロン株の流行、一部の国や地域におけるリモートワークの再びの義務化や、オフィスへの復帰プランの予定が遅延したことなどから、今後もあらゆる業界の投資家が、デジタル化と労働環境のハイブリッド化を求める圧力に注目し続けると予想されます。好調な投資環境と継続するデジタル化の流れが相まって、ベンチャーキャピタルによる投資は、2022年第1四半期に入っても引き続き高水準で推移するものと考えられます。



2021年：記録更新の年

2021年は、全世界での投資総額および取引総数数の両方において、ベンチャーキャピタルによる投資が史上最も好調な年となりました。米国、カナダ、ブラジル、英国、ドイツ、イスラエル、北欧地域、アイルランド、インドを含む多くの国・地域で記録的な投資レベルに達し、ベンチャーキャピタルによる投資状況は大変好調でした。また、コーポレートベンチャーキャピタルによる投資も当四半期中に最高記録に達し、2018年の最高記録を3割以上超えました。

非従来型の投資家の増加を含むベンチャーキャピタル投資家の幅が広がったことによって、世界的な資金調達額は、2019年の総額をわずかに下回ったものの、記録的な水準に近づきました。一方で、取引ライフサイクルは、イグジット活動の数とイグジット金額が記録を更新しました。特にイグジット金額の合計は、過去最高額の3倍近くに達しました。



ベンチャーキャピタル投資急増のカギはユニコーン企業

ユニコーン企業は世界的に、2021年のベンチャーキャピタルによる投資額の大部分を引き続き占めており、2021年第4四半期には、J&T Express（25億ドル）、Lacework（13億ドル）、Thrasio（10億ドル）、N26（9億ドル）など、既存の多数のユニコーン企業が大規模な投資ラウンドを実施しました。ユニコーン企業への投資総額とともに、取引数は前年比で倍以上となりました。

ユニコーン企業数の爆発的な増加は2021年第4四半期も続き、全世界で126のユニコーン企業が生まれました。ベトナム（Sky Mavis、Momo）、ブラジル（CargoX、Olist）、メキシコ（Clara、Merama）、インドネシア（Kopi Kenangan、Ajaib）、フィリピン（Mynt）を含め、成熟度の低いベンチャーキャピタル市場でも新たなユニコーン企業が誕生しました。世界的なベンチャーキャピタル市場の多様性の向上だけでなく、世界中から投資を呼び込むスタートアップの成長が目立ちました。

多くの国と地域では、ユニコーン企業のステータスを得ることが引き続き企業の大きなマイルストーンである一方で、米国でのユニコーン企業の急増（2021年第4四半期のみで76件）により、米国ではユニコーン企業のステータスを得ることの重要性に陰りが見られました。



引き続き増すESGの重要性

前四半期に続いて第4四半期も、COP26会議の影響もあってESGの重要性が高まっています。消費者が事業を行う企業に対してより多くの行動を求め、ベンチャーキャピタル投資家が投資の意思決定にESG指標の評価を取り入れたこと、株式上場を目指す企業にとってESGストーリーが重要になってきたことなどを受けて、ESGへの注目度は昨年比べて大幅に上昇しました。

また、ESGに特化したベンチャーキャピタルによる投資も発展し、さまざまな分野のネットゼロまたは低排出技術、食品・農業技術、代替エネルギーへの注目が高まっています。ベンチャーキャピタル投資家の立場からすると、ESGの課題の1つはESG活動を評価する一貫した基準が存在しないことです。2022年に向けて、企業と投資先の両者が利用できるような、ESG活動の結果を追跡、測定、および報告できるESGソリューションや測定ツールへの投資が増加すると考えられます。

グローバルー2021年 第4四半期



2022年に注目すべきトレンド

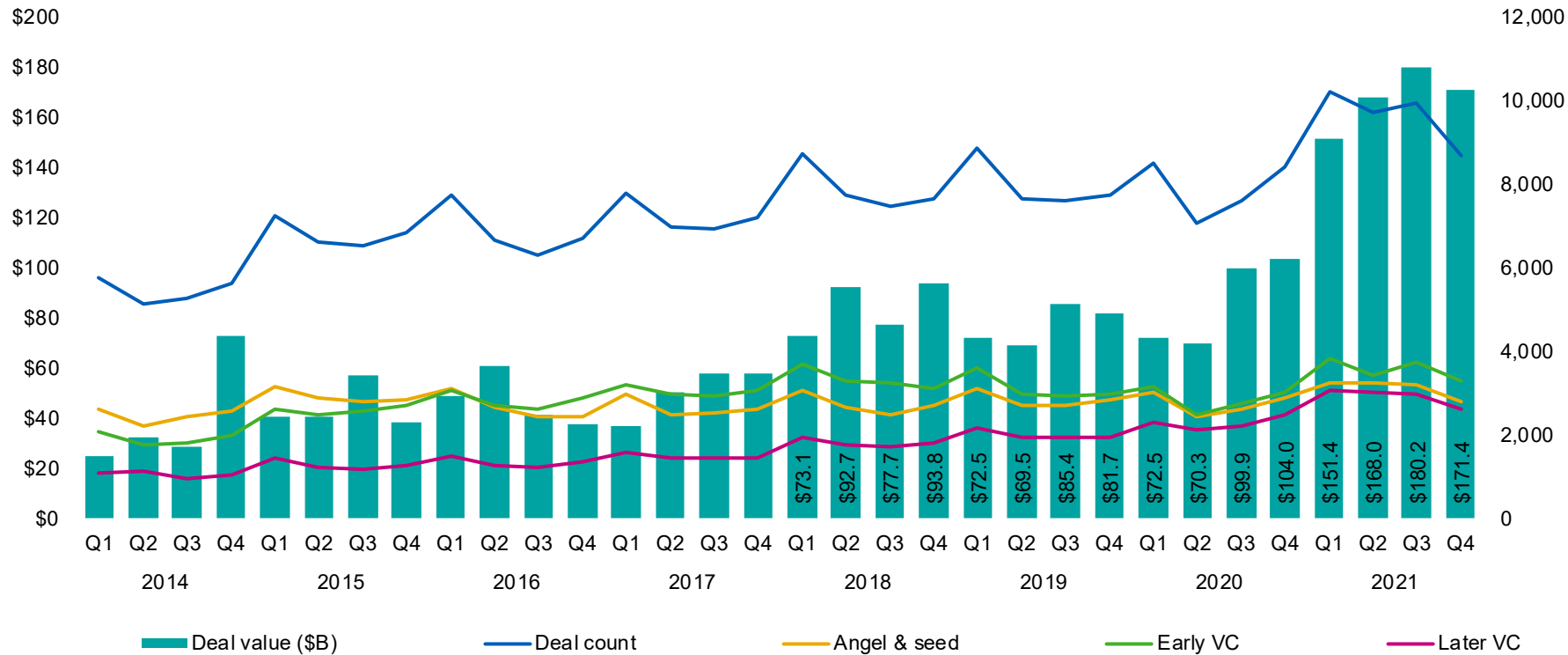
2022年に向けて、ベンチャーキャピタルによる投資は世界の大半の地域において堅調に推移すると予想されており、アフリカや中東などの後発のベンチャーキャピタル市場の地域に、ベンチャーキャピタル投資家が注目を集めると考えられます。フィンテックは、B2Bサービス、ヘルステック、サイバーセキュリティ、AIソリューションなどに加えて、分野を問わず最も注目されている投資分野の1つであり続けると考えられます。また、企業とベンチャーキャピタル投資家の両者がより広範なESGファンダメンタルズを優先する、または対象とするようになるため、ESGに沿ったベンチャーキャピタルによる投資もまた増加するものと予想されます。

2022年第1四半期に向けては、企業が上場の準備度合いにより注力するにつれ、IPOの勢いが減速する可能性があります。IPOの質は非常に高いと予想されます。M&A活動は、特にフィンテックやフードデリバリーなどの成熟度の高い分野で引き続き活発で、合併が大幅に増加すると考えられます。

グローバルー2021年 第4四半期

Global venture financing

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21. Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, January 19, 2022.

“ 現在、世界的なベンチャーキャピタル市場は非常にポジティブな状況にあり、オミクロン株による大きな後退はないと想定されています。この活況は、特に米国やヨーロッパにおいて2022年も続くでしょう。また、来年以降には、アフリカ、中東、南アメリカなど、世界の発展途上の地域においてベンチャーキャピタルによる投資が増え始めることが見込まれます。



Jonathan Lavender

Global Head,
KPMG Private Enterprise

米国—2021年 第4四半期

米国のベンチャーキャピタル市場は、2021年第4四半期に4年連続でベンチャーキャピタル投資額の記録を更新し、核融合発電開発会社Commonwealth Fusion Systems、フードデリバリー・消費財企業のGopuff、宇宙旅行企業のSierra Space、サイバーセキュリティ企業のLacework、電子商取引アプリケーション企業のThrasioなどが10億ドル以上の資金調達を行ったことで、1年を好調に終えました。



資金調達は1,000億ドルを超えて急増

米国での資金調達活動は、2021年に1,250億ドルを大幅に超え、2020年に記録したこれまでの最高額870億ドルを大幅に上回りました。この資金調達額の増加は、寄付、大学基金、富裕層、およびファミリーオフィスなどのLimited Partnershipの数が増加し、ベンチャーキャピタルへの投資額が増加したことなどが要因として挙げられます。

米国での資金調達の増加は、2021年には、6月にAndreessen Horowitzが調達した22億ドルのクリプトファンドなど、専門的なファンドの増加を含む多数のトレンドをもたらしました。2021年第4四半期末の時点でこのファンドは十分な資金で展開されています¹。また、実績のあるファンドマネージャーたちが資金調達環境の好調さを好機と捉え、大手ベンチャーキャピタル企業を離れて独自のニッチファンドを設立するケースが増えています。



フィンテックは合併を視野に入れる構え

2021年第4四半期の米国では、エンベデッドファイナンスであるDriveWealthが7億3,500万ドルを調達したことを筆頭に、フィンテックへのベンチャーキャピタル投資がかなり好調に推移しました。ウェルステックやインシュアテックのような分野は、今後もベンチャーキャピタルによる主要な投資対象ですが、より発達したサブセクター、例えばデジタルバンクなどは飽和状態になり始めています。従来型の銀行がよりスマートになり、変わりゆく顧客のニーズに対応するためのテクノロジーを取り入れるようになったことで、デジタルバンクはより難しい競争に直面しています。この分野では大規模なデジタルバンクが成功し、他のデジタルバンクが生き残りをかけて挑戦することで、いくつかの合併が生じ始める可能性があります。



米国でのイグジット活動は記録を大きく更新

米国におけるイグジット金額は、それまでの最高額であった2020年の2,890億ドルのおよそ3倍となり、またイグジット活動数も過去最高を記録して2021年を締めくくりました。IPO活動は引き続き活発な状況が続くと予想されますが、SPAC（特別目的買収会社）取引への熱意は2021年第4四半期の時点では低下し続けています。この四半期には、SPACによる合併を検討していた企業の多くが計画を撤回し、より従来型のIPOの準備が整うまで上場を控える決断をした企業もありました。



ベンチャーキャピタル投資家の興味を引くクリーンテックの定義の進化

この1年間で米国でのクリーンテックの定義は劇的に変化し、単なる風力発電やソーラー発電所の建設にとどまらないものとなっています。今日の投資環境では、クリーンテックには排出量の測定や監視を行うためのソフトウェアからより効率的に資源を利用するためのメカニズムまで、あらゆるものが含まれています。このようなクリーンテックの資金集約的ではない形態が、リスクとコストの両面からベンチャーキャピタル投資家の関心を大いに集めています。

これに加えて、世界的な気候変動への意識の高まり、企業の気候変動対策への投資意欲の高まり、そして2021年第4四半期の米国のインフラ計画に含まれた気候に配慮したさまざまな取組みと相まって、2022年もクリーンテックへの関心が後押しされると考えられます。より長期的には、特にこのインフラ計画によって、例えば電気自動車が走りながら充電可能となる道路のような、非常に革新的なインフラソリューションに投資する新時代に拍車がかかる可能性もあります。

1 <https://www.cnbc.com/2021/12/15/crypto-investor-katie-haun-leaves-andreessen-horowitz-to-launch-fund.html>

米国－2021年 第4四半期



2022年に注目すべきトレンド

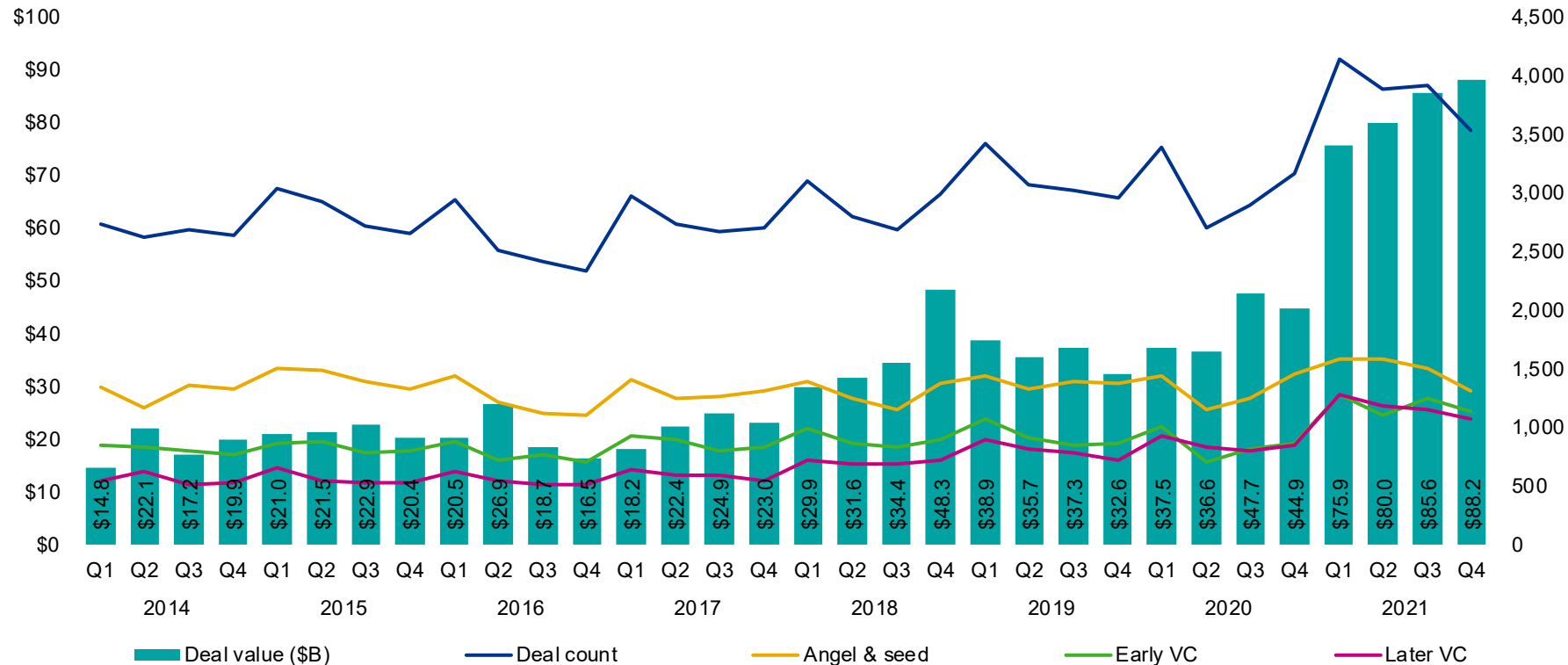
米国でのベンチャーキャピタルによる投資は、22年第1四半期も非常に堅調に推移し、ヘルステック、B2Bサービス、クリーンテックなどの分野がさらに勢いを増すと予想されています。また、プロップテックへの関心も高まることが予想されます。

米国のIPO市場も引き続き堅調に推移すると予想されますが、企業がスピードよりもIPOの質や上場の準備度合いをより重視するようになっているため、2021年のピークからは落ち込む可能性があります。2022年に注目すべき分野にフィンテックがあります。米国に拠点を置く一部の非公開のフィンテック企業は成長を続けており、規模を拡大し成熟度が増していることから、IPOのイグジットが間もなく増加すると考えられます。

米国—2021年 第4四半期

Venture financing in the US

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2021. Data provided by PitchBook, January 19, 2022

“ 企業は、リモートワークやハイブリッドワークにおける労務管理の難しさを十分に理解し始めています。そもそも企業は、必要な人材を惹きつけ、確保するという課題にすでに直面してきました。このため、人事・人材管理のさまざまなプロセスを簡素化および支援できる企業への需要は高まっています。このような状況から、米国および世界各国のHRテック企業へのベンチャーキャピタル投資が増加することは間違いないと考えられます。



Conor Moore

Global Co-Leader — Emerging Giants,
KPMG Private Enterprise, and Partner
KPMG in the US

南北アメリカー2021年 第4四半期

2021年第4四半期の南北アメリカにおけるベンチャーキャピタル投資は、米国での記録的な好成績に牽引され、非常に好調でした。カナダでは2021年第3四半期に非常に好調だったベンチャーキャピタル投資が、2021年第4四半期には大きく落ち込みました。しかし、前四半期間比での落ち込みはあったものの、カナダのベンチャーキャピタル投資額の第4四半期としては過去最高となりました。またブラジルでは、ベンチャーキャピタル投資が2021年第3四半期に記録的な高額に達しましたが、2021年第4四半期には多少の低下が見られました。それでも、同国のベンチャーキャピタル投資額としては過去2番目に良い四半期となりました。



超大型取引が引き続き大口取引である一方、初回の資金調達記録的な成長を遂げる

2021年第4四半期も、ベンチャーキャピタル投資では引き続き超大型取引が大きな割合を占めました。特に米国ではCommonwealth Fusionへの18億ドルの投資、Gopuffへの15億ドルの投資、Sierra Spaceによる14億ドルの資金調達、Laceworkによる13億ドルの資金調達、Thrasioによる10億ドルの資金調達のほかにも、Drive Wealth、Hinge Health、Nuro、Uber Freightなどによる5億ドル以上の資金調達ラウンドがありました。超大型取引の存在は2021年を通じて一貫した傾向でしたが、南北アメリカではこの1年、初めての資金調達の件数とそれに伴う取引額について新記録を達成しました。



カナダのベンチャー企業への投資には時間がかかるが、投資家の関心は高いまま

カナダのベンチャーキャピタル投資家は、第3四半期に非常に活発な投資を行った後、2021年第4四半期にはやや停滞し、潜在的なディールの評価とデューデリジェンスに時間をかけました。さらに冬期休暇中に特有の取引活動の鈍化が相まって、第4四半期中のベンチャーキャピタル投資の落ち込みにつながったと思われます。オミクロン株、サプライチェーンの問題、そしてインフレへの懸念が強くなったこともまた、カナダのベンチャーキャピタル市場の停滞を引き起こした可能性があります。

カナダでは、人材基盤、教育機関、多数の新興企業を含む強力なAIエコシステムに支えられ、AIは引き続き投資対象として非常に注目されています。さまざまな分野でAIソリューションが幅広く応用されていることから、カナダにおけるAIに重点を置いた投資は、2022年も好調に推移すると思われる。2021年第4四半期には、ヘルステックとフィンテックへの投資もまた、カナダにおける強力な投資分野となりました。



急速に成熟するラテンアメリカのベンチャーキャピタル市場

ラテンアメリカのベンチャーキャピタル市場は急成長を遂げており、より大規模な資金調達ラウンドを実施するスタートアップが増えています。企業の成熟化は、ユニコーンのステータスに到達する企業の数、およびその到達速度に顕著に表れています。2021年第4四半期には、ラテンアメリカで4社のユニコーン（ブラジルの物流会社CargoX、中小企業向けeコマースを実現するng Olist、メキシコのeコマースアグリゲータのMerama、および法人向けクレジットに特化したフィンテック企業のClara）が誕生しました。



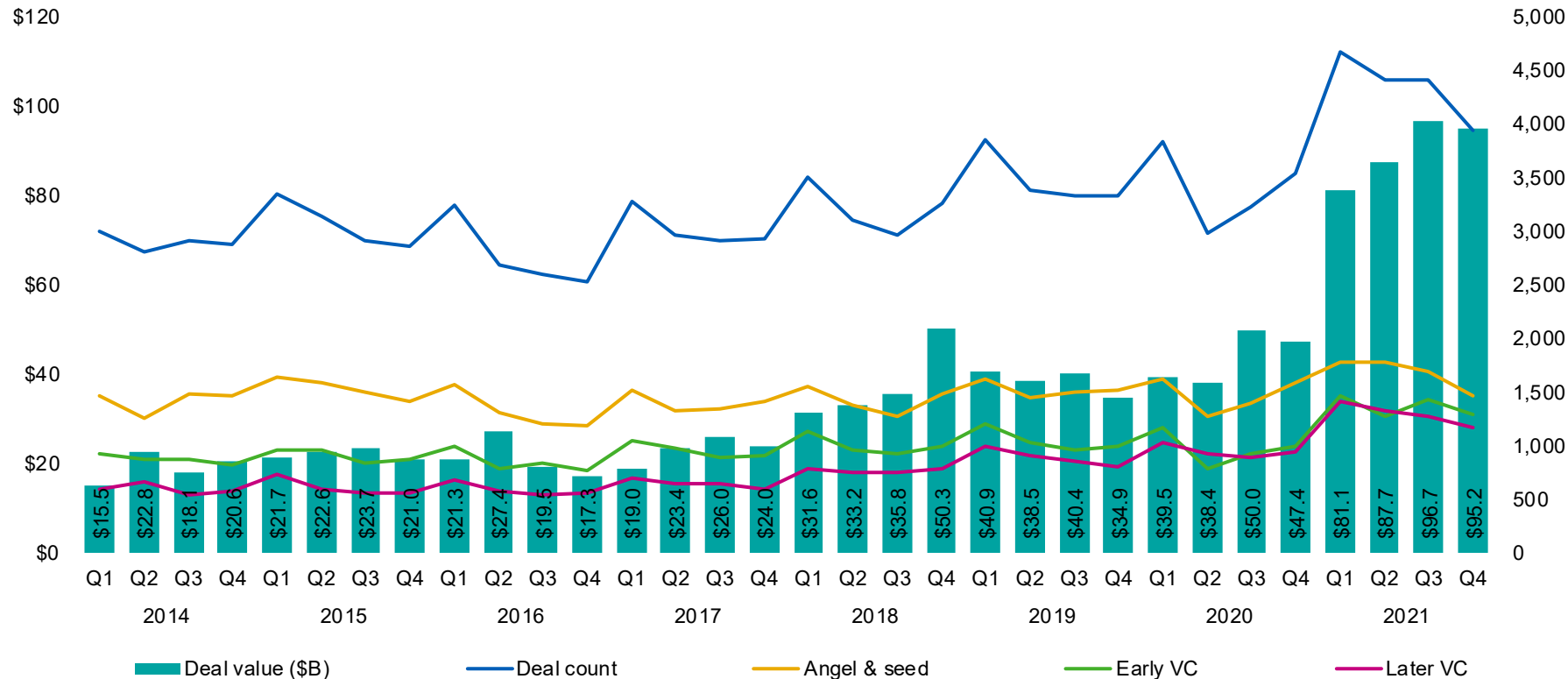
2022年に注目すべきトレンド

南北アメリカでは、2022年第1四半期に向けて活発なベンチャーキャピタル投資が行われると考えられます。米国がこの地域のベンチャーキャピタル市場で今後も中心であることは予想されますが、南北アメリカのほかの地域、特にラテンアメリカでは、強力で国際的に競争力のある企業が続々と登場すると考えられます。

南北アメリカー2021年 第4四半期

Venture financing in the Americas

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2021. Data provided by PitchBook, January 19, 2022

“カナダでは、IPOのイグジットは現在非常に好調です。とはいえ、急増したのは2020年に入ってからで、これは企業の評価額が一気に上昇し、それまでは上場を考えていなかった多くの企業が、突然、上場という選択肢があることに気付いたためです。引き続き資金が供給され、企業の評価額が比較的堅調なままであれば、2022年の第1および第2四半期もイグジットは好調に推移すると考えられます。”



Sunil Mistry

Partner, KPMG Private Enterprise,
Technology, Media and
Telecommunications,
KPMG in Canada

ヨーロッパ2021年第4四半期

ヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、英国、ドイツ、イスラエル、アイルランド、フランス、スペイン、北欧地域など、多くの国で記録的な水準の投資が行われ、2021年を通して非常に好調でした。堅調な資金調達環境、バリュエーション上昇、ユニコーン企業数の増加を、ヨーロッパのベンチャーキャピタル投資家は絶好の機会として捉えました。



デジタルバンクによる2021年第4四半期の大規模な資金調達ラウンドで、フィンテック分野がより活発に

2021年第4四半期には、ヨーロッパのいくつかのデジタルバンクが大規模な資金調達ラウンドを実施しました。この四半期中の大規模取引のなかには、ドイツに拠点を置くデジタルバンクN26による9億ドル、英国に拠点を置くZopaによる3億ドルの資金調達がありました。また、ほかの多くのフィンテック企業も大規模な資金調達に成功し、この分野がますます拡大していることを示しています。特にB2B分野では、ドイツに拠点を置くB2B決済会社Billieが2億9,800万ドルを調達しました。



急成長を遂げるヨーロッパのHRテック事情

新型コロナウイルス感染症が、過去2年間でヨーロッパのワークモデルを根本的に変えたことにより、組織が人材をより効果的に採用・管理することを可能とするソリューションに注目が集まっています。HRテックに対するベンチャーキャピタル投資家の関心は急速に高まっており、ヨーロッパ全体で投資家はHRテック企業に資金を投入しています。2021年第4四半期には、ドイツを拠点とする中小企業向けのHRプラットフォームPersonioが、この四半期におけるヨーロッパ最大のHRテックの資金調達ラウンドで2億7,000万ドルを調達しました。ヨーロッパでも世界でも、人材の争奪戦が激化しており、HRテックへのベンチャーキャピタル投資が2022年に向けて爆発的に増加するものと思われます。



COP26によって高まるESGへの関心

2021年を通して、ベンチャーキャピタル投資家や企業がネットゼロやESGに適合したソリューションやオペレーションの需要を認識したことで、ヨーロッパではESG関連ソリューションへのベンチャーキャピタル投資が増加しました。2021年第4四半期にヨーロッパで開催されたCOP26も、

この分野への注目を集めるきっかけになりました。ESGが主流の考え方に組み込まれつつあるなか、オペレーション管理、排出量追跡、ネットゼロインフラ、およびモビリティなどの幅広いソリューションへのベンチャーキャピタル投資が、2022年も拡大を続けると考えられます。



英国の年間ベンチャーキャピタル投資額は過去最高のほぼ倍に

英国のベンチャーキャピタル市場は、2021年は信じられないほど堅調で取引高が過去最高となり、投資額は過去最高の倍以上となりました。IPO活動も2021年を通じてかなり活発でした。フィンテックに加え、ヘルステックは英国におけるベンチャーキャピタル投資の特に強力な分野であり、他の多くの領域と比べ、ヘルステックのプレーヤーは急速に増加しています。2022年に向けて、Financial Conduct Authority (FCA: 金融行動監視機構) がBNPL (後払い決済) 企業への規制導入を検討していることもあり、BNPLは注目すべき分野となるでしょう。これにより、この分野での合併が促進される可能性があります。



ドイツではベンチャーキャピタルからの資金調達が大幅に増加

ドイツでは、ベンチャーキャピタルによる投資が2021年に急増し、バリュエーションの高まり、取引規模の拡大、幅広い分野におけるユニコーン企業数の増加がみられました。ドイツのIPO市場も勢いを増しており、準備のためにIPOのスケジュールを延長する企業もありましたが、IPOをイグジット戦略として検討する企業がこれまでよりも増加しています。2021年の第4四半期には、その広範な用途から、AIがドイツにおける投資の大きな対象となりました。特定の分野では、フィンテックとデリバリーが非常に注目されている投資分野でした。これは、2021年第4四半期にN26による9億ドル、およびGorillaによる10億ドル近い資金調達からも見てとることができます。また、アグテックやESGも、ドイツの多くのベンチャーキャピタル投資家達に注目されています。

ヨーロッパ2021年 第4四半期



イスラエルでのベンチャーキャピタル投資は四半期最高額を記録

イスラエルのベンチャーキャピタル市場は、ゲーム会社Moon Activeによる3億ドルの資金調達を筆頭に、四半期での投資額が過去最高となりました。市場には潤沢な資金がありますが、将来性のあるスタートアップにとって大きな課題となるのは人材不足であり、企業の成長と拡大のために最適な人材を確保し確保する必要があります。また、イスラエルでは、サイバーセキュリティなどの分野で企業の統合が始まっています。これは、大規模なベンチャーキャピタル投資家からの関心を引きつけるために、企業が規模を拡大しようとしているためです。



国際的な投資家の注目を集める北欧地域

北欧地域におけるベンチャーキャピタル市場のエコシステムは、この1年間で大きく進化を遂げ、大規模ラウンドで資金調達したり、IPO計画を検討し始めたりする企業が増えています。2021年第4四半期の投資額に落ち込みがあったものの、年間のベンチャーキャピタル投資は過去最高額を大きく更新しました。ヘルシンキでSlush（ベンチャーキャピタルやその他の投資家と企業とを結び付けることに成果を上げているカンファレンス）が開催され成功を収めました。



政府によるスクーター規制の整備が進むアイルランドは、マイクロモビリティに注目

2021年第4四半期に、公道での電動バイクや電動スクーターの使用を許可する法案が政府により可決されたことで、アイルランドではマイクロモビリティの分野が非常に注目されました。個人的な移動手段が増えることは前向きな動きとして捉えられており、多くのeモビリティ企業はこの法律により、eモビリティの許容が広がり、使用者の安全が強化されると考えています。あらゆるユーザーの交通安全の強化に政府が注力することで、ヨーロッパ中のeモビリティ企業への関心を集めており、2022年以降はこの分野への投資が増加する可能性があります。2021年の第4四半期に、アイルランド政府はアーリーステージの企業に重点を置いた9,000万ユーロのイノベーションファンドを、2022年中に開始することも発表しています²。



2022年に注目すべきトレンド

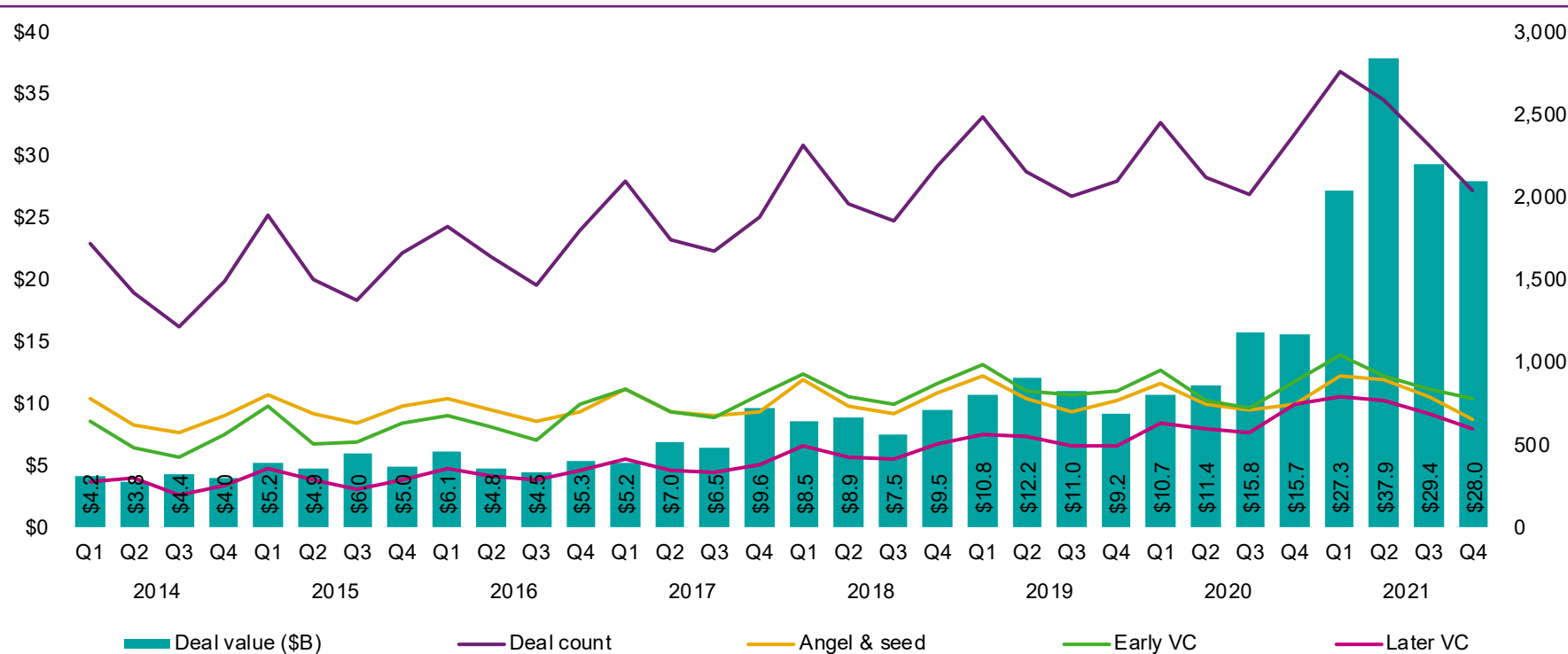
ベンチャーキャピタルとコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、2022年の第1四半期も引き続き堅調であると予想されます。フィンテック、デリバリー、ヘルステックは引き続き注目の分野ですが、インシュアテックやESGへの投資も引き続き勢いを増すと思われます。また、アグテックも2022年に大きく注目されると予想されます。これは、この地域のアーリーステージのアグテック企業が成長し、より大規模な資金調達ラウンドを実施すると考えられるためです。

2 <https://www.irishtimes.com/business/companies/venture-capital-funding-for-irish-smes-rose-almost-20-in-q3-to-231m-1.4734683>

ヨーロッパ2021年 第4四半期

Venture financing in Europe

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2021. Data provided by PitchBook, January 19, 2022

“英国では、ESGに焦点を当てたビジネスへの投資が明らかに増加しました。グラスゴーで開催されたCOP26会議の影響もあり、大規模な案件はまだ多くありませんが、この分野への関心は非常に高まっています。また、ネットゼロなどの分野への投資促進を主な目的とした政府の助成金やプログラムの導入も増えてきています。”



Warren Middleton
Lead Partner for Emerging Giants
CoE in the UK,
KPMG in the UK

アジアー2021年 第4四半期

アジアでのベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第4四半期は非常に好調で、ベンチャーキャピタルによる年間投資総額は過去最高を更新しました。インドネシアを拠点とするJ & T Express (25億ドル)、中国を拠点とするRegor Therapeutics (15億ドル)、GTA Semiconductor (12億5,000万ドル)、Nanjing LingHang Technology (12億ドル)などの企業、シンガポールを拠点とするMoonPay (5億5,500万ドル)、およびインドを拠点とするPharmEasy (3億5,000万ドル)など、アジア太平洋地域で多数の企業による大規模な資金調達が行われました。



AIで成功した中国は2021年第4四半期の投資に注力

中国では、Nanjing LingHang Technology (12億ドル)、Dreame Technology (5億5,800万ドル)、およびAvatar Technology (3億7,700万ドル)を含むAI企業による多数の大規模取引を筆頭に、ベンチャーキャピタルによる投資は2021年第4四半期も堅調に推移しました。この四半期には、AI企業SenseTimeが香港証券取引所にデビューし、7億4,000万ドルを調達しました。

2021年第4四半期では、中国の一部の分野では規制の変更に伴ってベンチャーキャピタルによる投資の減少が見られましたが、先進的製造業、電気自動車製造業、再生可能エネルギー、グリーンテクノロジー、ヘルスケアおよびバイオテクノロジーなどの分野は引き続き注目され、ベンチャーキャピタルによる投資を集めました。



インドでは過去最高の前四半期の記録を下回るが、ベンチャーキャピタルによる投資は堅調

インドでは、過去最高を記録した2021年第3四半期と比較して、2021年第4四半期は大きく落ち込みました。しかし、そのような状況下でも、2021年第4四半期はインドにおけるベンチャーキャピタル投資の歴代2位の四半期となりました。経済成長、政府の安定した政策、そして中間層の増加が、ベンチャーキャピタル投資家の関心を高める要因となっています。また、中国の中央政府が優先的に取り組んでいない分野を中心に、中国の政策の方向性が変化したこともインドへの追加投資を促進したと考えられます。分野別に見ると、フィンテックは、ヘルステック、B2Bサービス、消費者向けプラットフォームに加えて、21年第4四半期にインドで非常に多くのベンチャーキャピタル投資が行われた分野です。



2021年第4四半期にインドでのIPO活動が急増

2021年を通して、アジアでのイグジット活動は盛んでした。中国では年初に取引額が大幅に増加し、年後半には急激に減少しました。インドのスタートは落ち着いたものでしたが、オンラインコスメティクス企業Nykaaとデジタル決済企業PaytmのIPOによって、2021年の第4四半期は非常に活気付きました。Nykaaは10月のIPOで7億2,200万ドルを調達し³、デジタル決済会社Paytmは11月、ボンベイ証券取引所と国立証券取引所で24億ドルの重複上場を果たしました⁴。インドの株式市場が活況を呈していることは、ベンチャーキャピタル投資家がインドへの投資から良いイグジットを得られるという自信を深め、ベンチャーキャピタル市場への関心の継続につながっていると考えられます。

香港（中華人民共和国香港特別行政区（SAR））では、市場全体のボラティリティと流動性、データセキュリティとVIE（Variable Interest Entities：変動持分事業体）構造の規制変更に関連する緊張感のなかで、21年第4四半期にIPO活動が大幅に減速しました。しかし、2022年には上場ペースが回復すると予想されています。これは、IPO前の企業や米国に上場している中国本土の企業が、米国での上場の課題を踏まえてIPO戦略を再検討し、香港（SAR）での上場を選択することが予想されるためです。また、香港証券取引所がSPACに対して12月に導入した新たな上場制度が、香港（SAR）での上場を中国本土および東南アジアの高成長かつ革新的な企業にとって魅力的なものとなる可能性があります。

³ <https://beautymatter.com/articles/indias-nykaa-raises-heavily-over subscribed-722-million-ipo>

⁴ <https://fortune.com/2021/10/29/paytm-ipo-india-largest-2021-share-sale-zomato-china-crackdown/>

アジアー2021年 第4四半期



日本のベンチャーキャピタル市場は記録を更新し、成熟を維持

日本では、2021年第4四半期も引き続きベンチャーキャピタルによる投資が活発に行われ、過去最高の45億ドルのベンチャーキャピタル資金を集めた記録的な年の締めくくりとなりました。スタートアップエコシステムの急速な進化、スタートアップの増加、資金調達額の増加は、日本に注目を集め、海外からのベンチャーキャピタル投資の誘引に大きく貢献しました。21年第4四半期には、バイオテック企業のAculysPharma⁵とスニーカーマーケットプレイス企業のSoda Inc⁶が、ソフトバンク・ビジョン・ファンドから投資を受けた最初の日本のスタートアップとなりました。また、日本における年間のイグジット額は、21年第3四半期のPayPalによる後払い決済サービス企業Paidy買収などで、前年比倍増の76億ドルとなりました⁷。



2022年に注目すべきトレンド

アジアにおけるベンチャーキャピタル投資は、2022年第1四半期に向けても堅調に推移すると考えられます。中国では、政府が経済のグリーン化に力を入れており、電気自動車（EV）の最大の市場となることを目指していることから、ESGへの投資が増加すると予想されます。

インドでは、2021年に記録的な数のユニコーンが誕生しましたが、2022年には、さまざまな分野で急速に成熟した企業が大規模な投資を呼び込むことで、ユニコーンの数がさらに増加することが期待されています。フィンテック、エドテック、そしてeコマースは、引き続きベンチャーキャピタル投資家による投資の注目分野となると考えられます。ただし、これら3つの分野では、小規模な企業が規模を拡大したり、または資本力のある大企業に買収されたりすることで、統合が進む可能性もあります。

5 <https://aculys.com/en/aculys-pharma-closes-us60-million-series-a-financing/>

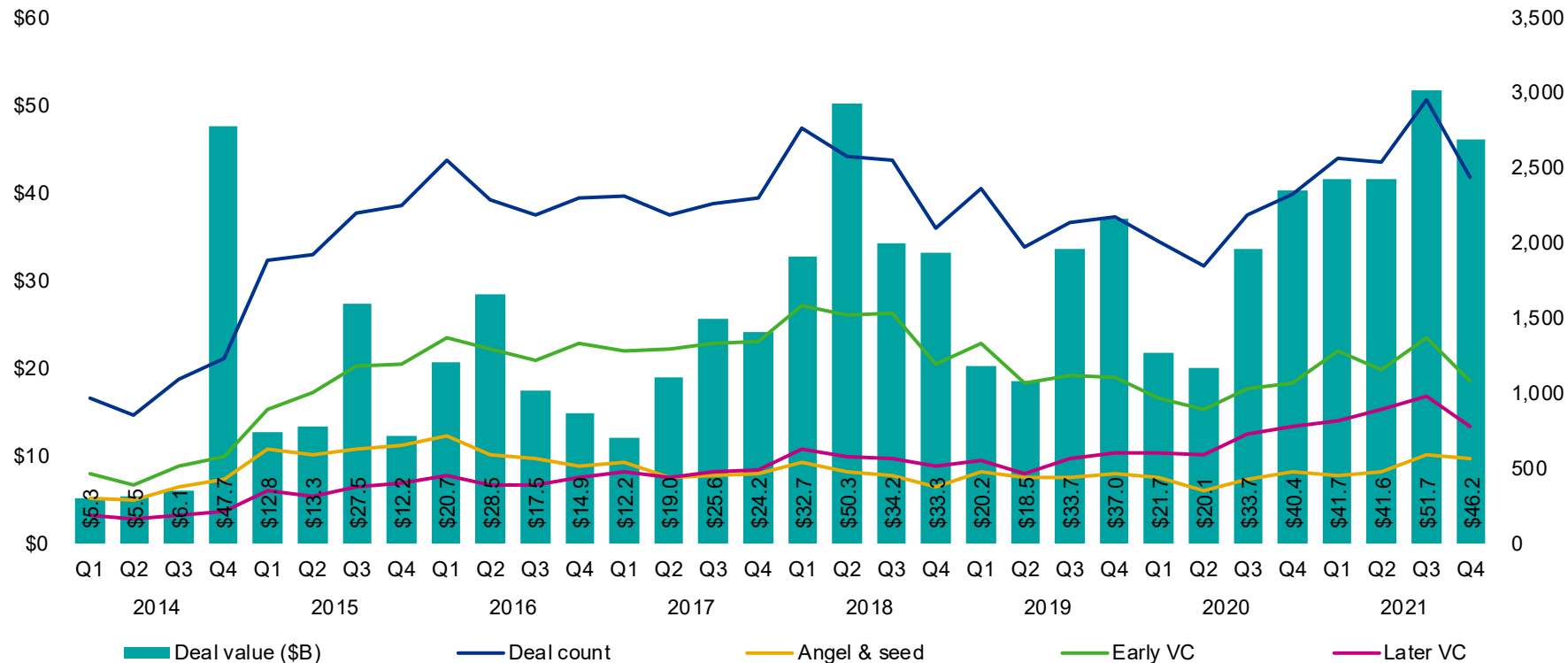
6 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000025.000043703.html>

7 <https://newsroom.paypal-corp.com/2021-09-07-PayPal-To-Acquire-Paidy>

アジアー2021年 第4四半期

Venture financing in Asia

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2021. Data provided by PitchBook, January 19, 2022

“中国では、ベンチャーキャピタルによる投資成長の余地が大きいある分野の1つにESGがあります。中央政府は経済のグリーン化に力を入れており、革新的な技術を大いに活用して、EV製造などの分野のリーダーになることを目指しています。これにより、2022年にはこの分野に大きな成長がもたらされるであろうと考えられます。”

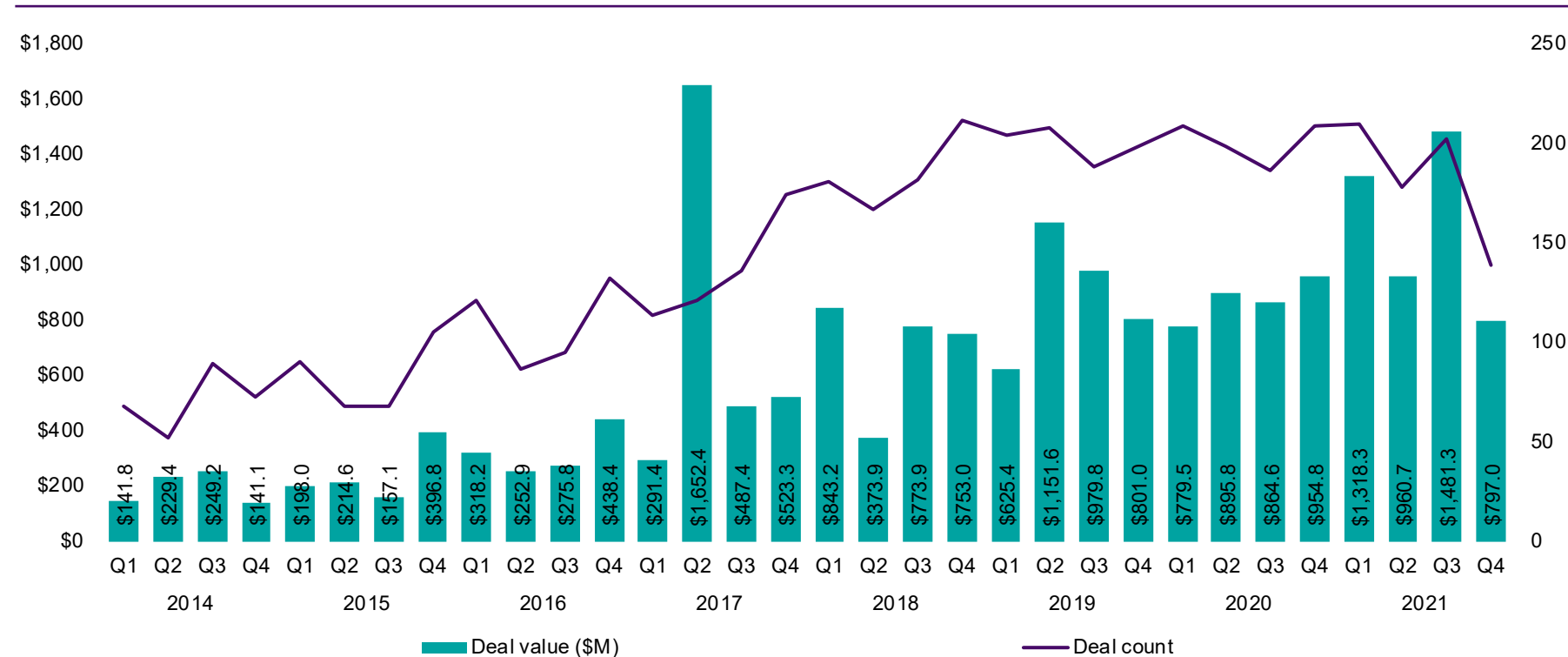


Egidio Zarrella
Partner, Clients and
Innovation
KPMG China

アジアー2021年 第4四半期

Venture financing in Japan

2014–Q4'21



Source: Venture Pulse, Q4'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2021. Data provided by PitchBook, January 19, 2022

“日本のベンチャーキャピタル市場は非常に急速に進化しており、2022年にはさらなる成長が見込まれています。これまで以上に企業の資金調達や、海外のベンチャーキャピタルの参入が増えるでしょう。言うまでもなく、大きなイグジットがより大きなイグジットを呼び込みます。信じられないほど数多くのチャンスがあり、すぐに減速する気配はありません。

”



Hiroshi Abe

Executive Board Member,
Partner
KPMG AZSA LLC



KPMGジャパン セクター統轄室

Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター

home.kpmg/jp/private_enterprise

英語オリジナル

[Venture Pulse Q4 2021 : Global analysis of venture funding](#)

home.kpmg/jp/socialmedia



本冊子は、KPMGインターナショナルが2022年1月に発行した「Venture Pulse Q4 2021 : Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2022 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International2entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2022 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 21-1057

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.